



## ★注意事項

- ・ フィラデルフィア染色体陰性症例、60歳以上対象、寛解導入療法
- ・ 通常のクール数1回のみ
- ・ 初診時の骨髄穿刺での染色体検査の結果が判明し、Ph陽性であればPh陽性 ALL プロトコールへ移行する
- ・ 腫瘍多量の場合、Day8 のダウノマイシンとエンドキサンの投与を中止。その場合、エンドキサンは Day9 に投与し、ダウノマイシンは Day9～11 に投与する
- ・ Day15, 22, 29 に骨髄穿刺を行い、減量中止を考慮する
- ・ プレドニゾロンは、糖尿病の既往があれば減量
- ・ オンコビンによる Grade3 以上の末梢神経障害があれば、オンコビンを中止または減量
- ・ オンコビンによるイレウスがあれば中止
- ・

### [エンドキサン](炎症性)

- ・ 100mg あたり 5mL の生食または注射用水等に溶解し、適当な輸液で希釈する
- ・ 出血性膀胱炎防止のため尿量の増加を図る(飲み水の励行など)
- ・ 《併用禁忌》ペントスタチン(コホリン)
- ・

### [ダウノマイシン](壊死性)

- ・ 20mg あたり 10mL の生食を加え溶解する
- ・ 総投与量が 25mg/kgを超えない
- ・

### [オンコビン](壊死性)

生食、注射用水または 5%ブドウ糖を加えて溶解する

- ・ 1 回量は 2mg/body を超えない
- ・ 過剰投与時にホリナート(ロイコボリン)が有効であったとの症例報告がある
- ・

### [ロイナーゼ] (非炎症性)

- ・ 本剤による凝固障害や膵炎、肝機能障害があれば減量・中止を考慮する
- ・ 吐き気、食欲不振を起こしやすい
- ・ 最初に 2～5mL の注射用水により溶解し、その溶液を更に補液で 200～500mL に希釈して使用する
- ・ 生食での溶解は避ける